

2013 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

国名[台湾]

学校名[日新国小] 担当教諭名[王慧玲] (六 年 七組 23名)

日本学校名[四十万小学校] 担当教諭名[坂上 則子] (六 年 組 35名)

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語	フォーラムの発表の下書き作業/英語の芝居	10 時間
	パソコン	PPT を作ります	2 時間
	芸術と人文	アートマイル・日本文化の紹介	24時間

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	百年を越えた歴史
絵に込めたメッセージ	このテーマにした理由は、北陸新幹線が2015年に金沢市まで開業しますから。北陸新幹線の開業により金沢と他の都市との距離が大幅に短縮され、経済、文化などにも大きく影響されます。両校の先生はこの100年以來の遊びや勉強や駅などの変化を絵にして、描く事にしました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
このクラスにとって、今回の交流は二回目ですから、前回よりもすることがはっきりと分かってきているようです。但し、今年はテレビ会議をしませんでしたから、学生は「交流活動」や相手校の学生に対して何の感覚もなかったようです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相手校の先生と3回この活動をしました。今回では何となく互いの交流に対しても共同の認知が足りないようです。 2. どうすれば、両国の学生がより知り合えるのは先生にとって大きな課題である。

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
絵を廊下に飾ったため、学校の関係者以外も通るかかった人にも鑑賞してもらうことができました。なお、学校の Web サイトにても掲載してあります。	保護者が来校の際に、足を止めて絵を鑑賞します。絵やメッセージの説明を通して、日本の文化や金沢の特色がわかり、毎年の展示にかなり高度な肯定を得ています。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	九月	1. 生徒に交流の流れを説明し、作業を配分する。 2. チーム分け	生徒は、まだ受ける立場なので反応があまり積極ではないようです。生徒に対して、英語で交流するには、書きや話すのも不安だった。	英語 芸術と人文
情報収集	十月	1・インターネットで大同区に関する食文化や有名な建物、特産物、及び日新小について調べた。 2. 英語で自己紹介のカードの制作。 3.相手校の先生とのTV会議	1.生徒は資料の整理に苦手だった。 2. カードの制作に入ってから、活動に対する意識を始めた。	英語 芸術と人文
テーマ検討	十一月	インターネットで大同区に関する食文化や有名な建物、特産物、及び日新小について調べ、PPT を制作。	生徒は PPT の制作方法があまりわかりませんから、ユニークな PPT ができませんでした。	パソコン 芸術と人文
制作	十二月～一月	1. クリスマスのカードの制作  2. 絵の色塗りを行った。	1.季節に合わせて、学生一人一人にモチーフを作ってもらって、その後、すべてのモチーフを組み合わせ、大きいカードにしました。生徒はこのような活動に非常に興味を示してくれました。 2・絵の作業については、クラスの10名の希望者が、昼休みや冬休みに来てくれて、色塗りをしていた。	芸術と人文
鑑賞	二月	共同制作した絵の鑑賞	1.中国語の説明を通して、学生と保護者は金澤の変わりが理解できました。 2.展示があったからこそ、絵画担当の学生はもっと達成感を感じました。	

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことを ABC で記入 (A:特に重視した B:重視した C:あまり重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	資料の整理を通して、日新の学生は自分の国の文化について、更に理解できた。
異文化の理解	B	4	学校見学を通して、両国の異文化について、更に理解できた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	3	英語で言いたいことを表現するのは難しかった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	今回はインターネットで情報を集めた。その中から必要なものを取り出してもらったが、あまりポイントが絞れなかった。結局教師からもう一度見直したことになった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	3	活動を通じて、団結力を高めることを目指していますが、その効果がよくなかった。恐らく理由は主導者は非担任だったから。学生と接触できる時間が限られていて、予想の効果に達せなかった。

協働する力 (役割分担・協力)	B	3	仕事配分に少し意見が合わないことがあった。
学習を追究する意欲	B	3	先生が積極的に取り組まない限り、学業が大変な学生は、この交流活動になかなかやる気が出せない。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	C	5	絵の担当役達は、経験があまりなかったが、制作にとっても専念だった。
作品を鑑賞する力	C	4	美術の時間に両方のよさと欠点を述べた。